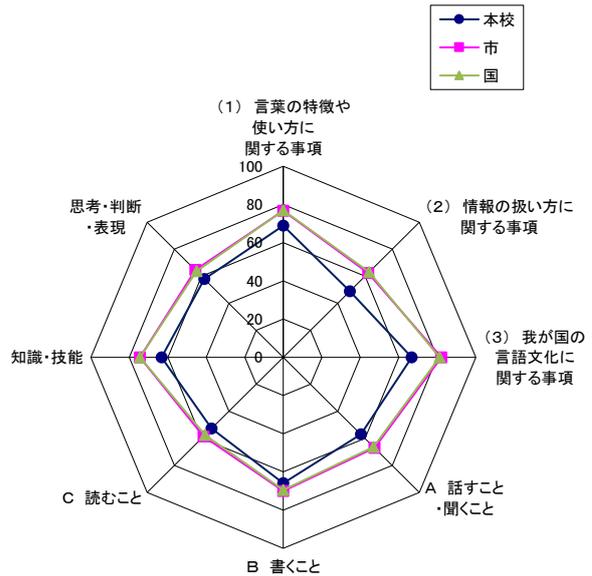


宇都宮市立錦小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	68.9	76.7	76.9
	(2) 情報の扱いに関する事項	48.9	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	66.7	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	57.0	67.0	66.3
	B 書くこと	65.9	70.0	69.5
	C 読むこと	52.8	58.6	57.5
観点	知識・技能	63.3	74.5	74.5
	思考・判断・表現	58.0	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、国の平均正答率より低い。 ●文の中で漢字を正しく使うことができるかどうかをみる問題が2問出題された。国の正答率に比べ、1問目は10.5ポイント、2問目は5.4ポイント低かった。 ●短答式の問題では、国の無解答率より10ポイント以上高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の習得については、家庭学習を推奨するだけでなく、読み書きの定着を目指して定期的にミニテスト等を実施する。また、文章中で正しく漢字を使うことができているかどうかについては、他教科等で日常的に漢字を使用するよう声掛けをしていくとともに適切に書くことを確認し、その都度指導していく。 ・新出漢字を学習する際には、部首や成り立ち、意味調べを併せて行い、様々な視点から自分の覚えやすい方法を見つけられるようにしていく。 ・読書の有用性について指導し、今後も読書活動を奨励していく。
(2) 情報の扱いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、国の平均正答率より低い。 ●情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる問題では正答率が48.9%で、国の正答率より14.2ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の学習では、主に説明文を取り扱う単元で情報の活用の仕方を学び、さらにそこから考えを広げたり深めたりする学習を丁寧に展開できるようにする。また、教科書における情報を扱う単元が増えていることから、日頃から情報を活用する能力を養っていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、国の平均正答率より低い。 ●時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる問題では、正答率は66.7%で、国の正答率より14.5ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、自分の考えを広げたり深めたりするために、書かれている事柄を正確に読みとり自分の考えをもつことを大切にする態度を育成していく。 ・本や新聞等、活字を読む活動を意図的に取り入れていく。
A 話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、国の平均正答率より低い。 ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題の正答率は48.9%で、他2つの問題と比較すると国の正答率に近かった。 ●インタビューの際に、話の内容を捉えることができるかどうか、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題では、2題とも国の正答率に比べ約11ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチをしたり、自分の考えを述べたりする場面で、話の内容が相手に正確に伝わるように資料を活用したり、根拠を示しながら説明したりすることができるよう、指導を行う。また、国語だけでなく、学級活動等、他の教科でも、互いに意見を交流できるような時間を作るようにする。 ・相手の話を聞いて、大まかな内容を捉えたり自分の考えと比較したりする活動を意図的に設定し、学習経験を増やしていく。
B 書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、選択式問題は国の平均正答率より低く、記述式問題は高い。 ○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題の正答率は62.2%で、国の正答率より0.9ポイント上回った。 ●書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして文章の構成を考えることができるかどうかをみる問題の正答率は55.6%で、国の正答率より9.9ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く活動の事前準備を大切に、書く題材に必要な事柄を集め、自分の考えが明確になるよう事柄の順序に沿った構成を考えさせていく。既習事項を振り返らせながら、つながりのある文や文章を書いたり間違い等に気付かせ直すことができるよう読み返す習慣を付けたりするなど、日常的に書くことの経験を取り入れ、能力の育成を図っていく。 ・想像したこと、経験したこと、観察したこと、説明すること、メモにまとめること等の具体的な場面を設定して言語活動を行いながら、指導していく。
C 読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、国の正答率より低い。 ○目的に応じて文章と図表等を結び付け必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題の正答率は40%で、国の正答率40.8%に近かった。 ●上記と同じ能力をみる問題の記述式では正答率は51.1%で、国の正答率56.3%より5.2ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文や情報を取り扱う単元において、情報の活用の仕方を学び、さらにそこから考えを広げたり深めたりする学習を丁寧に展開するとともに、社会や理科等他教科においても、メモや資料等を読み取る際に注意する点、メモを書く際の表現の仕方等、取り上げ指導していく。